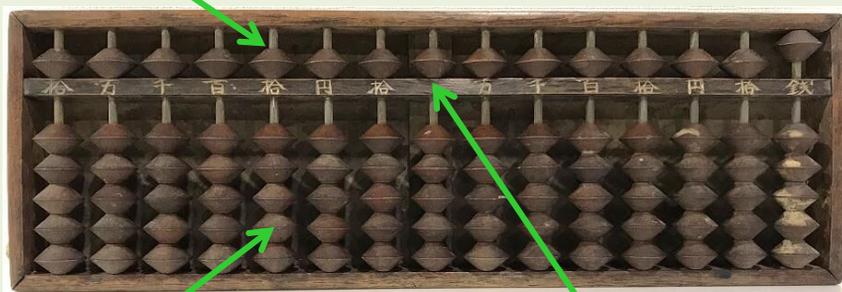


# そろばん

【五だま】  
ひとつのたまで5を  
表します。



【一だま】  
ひとつのたまで1を  
表します。

【はり】  
はりの上のたまを五だま、  
下のたまを一だまといいます。

珠を指ではじいて計算をする道具で、16世紀に中国から伝わり、江戸時代に広まりました。

中国では算盤（スアンパン）、朝鮮では珠盤（チュバン）とよばれており、中国音のスアンパンがなまってそろばんとよぶようになったという説が自然ですが、走盤（そうばん）がそろばんになったという説も有力になってきました。また当て字も50以上発見されています。

そろばんを使って、足し算や引き算はもちろん、かけ算や割り算もできます。

昔は「読み書き、そろばん」といって、文字を覚えることと、そろばんを使って計算ができるようになることが大切な勉強でした。

## ～道具とことば～

### ●そろばんをはじく

そろばんを用いて計算する。また、損得を計算する。

### ●そろばんて錠があく

しっかりと計算してかかれば物事は確実に解決できる。また、計算には不思議な力があるの意。

### ●そろばんに掛ける

勘定すくである。打算的である。

